

マタイによる福音書 5章 17-20 節

「一点一画を大事に」

聖書は、とても分厚い書物ですが、その中心的メッセージはそんなに多くありません。まず、あなたのいのち、あなた自身は神さまの御心だということ。神さまから引き離す悪い力から解放されて、神さまと共に生きなさいということ。そして、あなたは愛され・赦されて生きている存在だということ。この三つが聖書の中心的メッセージです。

律法(ルール)には、たくさんの言葉があります。律法が書かれていたヘブライ語のアルファベットは、全部で 22 文字です。そこにたくさんの点や線を加えて、単語や文章になっていきます。それを一点一画誤り無く記録し、写し取り、覚えていくのです。律法を学ぶ者は、この一点一画を見落とさないよう、書き落とさないように必死に写本し、必死に暗記し、がんばって勉強します。自分が勉強している学びに不足はないか。自分にはどこか落ち度がなにか。そのように必死になります。すると不思議なことに、自分以外の他人の落ち度が目につき、気になります。そのうち、相手の間違いを指さして、重箱の隅をつつくようにして、批判や非難に明け暮れるようになります。お互いのいのちを大切にするために与えられた神様からの律法が、逆に自分が縛られ、相手を縛って、存在を台無しにしてしまものになってしまっていたのです。

今日の箇所を読むと、イエスさまが、神さまから与えられた律法という戒めを、とても大切にしていることがわかります。きっと、この頃、イエスさまのなさることが斬新すぎて、それまでの常識から離れすぎていたのでしょう。ですから、律法学者やユダヤ教の指導者たちから、「あいつは、律法破りだ」「ナザレのイエスの語る言葉は、律法など無視している」と、イエスさまはいつも非難を浴びていました。しかし一方で、日ごろから貧しく、生きるための様々な事情があり、律法どおりの生活ができない「罪人」たちは、イエスさまの評判を聞いて、希望が与えられていました。律法なんかより、もっとすごいことを見せてくれる人がいるらしい。自分たちを縛り付ける律法を、壊してくれるんじゃないだろうか…そんな期待をもって、どこの町にいてもたくさんの人々がイエスさまのところに集まってきました。

そこでイエスさまは、両方の立場の人たちに対して、伝えました。「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思っはならない。廃止するためではなく、完成するためである。」(17節)。イエスさまは、人々に本当に大切なことを伝えました。神さまが愛されたもの、何のためにこの世界をつくり、命をつくり、何のために戒めを授けたか。神さまが、最も大切にされたものに目を向けているのです。律法の一点一画が落ちてはならないほどのもの。神さまが大切になさっているものは何か。それは、私たちの「いのち」です。一点一画をさえ欠いてしまっはならないほどに、神さまから大切にされ、神さまが慈しんでおられるのは、この「わたし」という命なのです。

私たち自分の人生には、愛されること・赦されることがどうしても必要です。それがなければ生きていくことができません。その愛や赦しがどこからきているのでしょうか。それこそ、イエス・キリストの十字架と復活にあります。十字架と復活により、私たちが愛され赦されていることを知れるのです。イエスさまの祈りをいただきながら、神さまに受け入れられ赦されていく。わたしが完成させるのでなく、イエスさまの十字架と復活が、わたしの人生を完成させてくれるのです。キリストの十字架と復活は、わたしの人生の一部なのです。イエスさまが、一点一画も落ちてはならない大切なわたしのいのちの一部なのです。この不安な今だからこそ、自分自身のいのちを大切にしてください。神の愛、イエスさまの愛と赦しを覚えて過ごしていきたいと願います。